

## 編集後記

このたび、紀要36号として、『刑事法の諸問題Ⅷ』を刊行する運びとなりました。運営委員の関係で編集を担当させていただきましたが、貴重なご寄稿を多数いただくことができ、つつがなく刊行の運びとなりました。ご寄稿くださった方々に厚く御礼申し上げます。

朝倉先生には、自由心証と陪審制との関連について示唆に富む論稿を賜り、絶えざる学問への情熱に深い感動を覚えますとともに、後に続こうとする者にとってこの上ない激励をいただいたことに対し、深く感謝申し上げます。庭山先生からも、担当しておられる事件に関する貴重な論稿をいただき、研究者及び実務法曹としての情熱の深さに改めて敬意を抱かされました。森武夫先生には、刑事事件の情状鑑定という極めて実務的な領域について、永年のご研究とご経験に基づく論稿を賜ることができました。刑事裁判に特化した実務に従事してきた小生にとって、ご提案も含めて啓発されるところが多く、やむにやまれぬ気持ちでお願いするような情状鑑定に対して、このように対応して下さっていることに敬意と感謝の念を覚えました。日高先生・稲垣さん・張さんには、法思想史・刑法理論史の重要な論点に関わるアメルンクの論文の素晴らしい翻訳をお寄せいただきました。学問をする喜びを共有させていただける幸せを感じました。岡田好史先生には、銀行からの預金通帳の詐欺罪に関する判例評釈をいただきました。専大刑事犯例研究会で取り上げた他の判例に関連する問題をも念頭に置いて論じておられることも察せられ、心強く思いました。そして、新進気鋭の森住先生からは、放火罪に関する難しい領域について、意欲的で内容豊かな優れた論文を寄せていただくことができました。

今回編集に当たらせていただき、綿々と続く本大学の刑事法の層の厚さと力強いパワーを改めてひしひしと感じた次第です。あれこれとお世話になった事務局担当の方々、勝手なお願いに快く応じて下さった出版局の方々にも、心から感謝申し上げます。

平成23年 2月

編集委員 小出 諒一